

吹田市地域医療推進懇談会作業部会の報告

1 作業部会設置の趣旨

- 昨年度の地域医療推進懇談会において、日常的な療養支援における病院と診療所の医師等との連携や在宅療養患者の急変時における入院受け入れ体制等の「病診連携」についての課題、また、患者の状態に応じた機能を持つ病院への転院や在宅医療への移行等の「病病連携」の促進の必要性などが課題の一つとして挙げられた。
- そういった議論を踏まえ、病診連携及び病病連携の促進等について、病院関係者等のご参画により、改めて現状や課題を整理し、問題意識を共有したうえで、具体的な対応策を議論することを目的に、作業部会を設置。

2 作業部会での論点

以下について、現状及び課題の抽出、対策の方向性に対する意見をいただいた。

- 在宅医療推進の環境づくりについて
「日常的な療養支援」、「急変時の対応」、「退院支援」、「看取り」
- かかりつけ医等の定着促進について

特に以下の視点を意識的に議論

- ・在宅療養患者の急変時の入院受け入れについて
- ・患者の流れを円滑にするための病病連携について
- ・在宅への退院支援について（病診連携のあり方や連携室の対応の均てん化等）
- ・病院内の在宅医療について理解向上のための取組みについて

3 作業部会での意見

- (1) 現状及び課題、対策の方向性についての意見（資料 3-2）
 - (2) 在宅療養患者の急変時対応における病診連携・病病連携の促進についての対策案
- 作業部会において、急変時入院の受け入れ体制や病病連携において患者の流れを円滑にするための対策として、次の提案がありました。

【提案内容】

- ① 急変時入院の受入先を分散し充実させるために、市内各病院の受入体制や受入可能な条件などを診療所に情報提供してはどうか。
- ② 診療所から入院依頼をする際の診療情報提供書に、入院や治療に対する本人・家族の受け止めや在宅療養へ戻ることへの本人・家族の思い等を明記すれば、受入れ側も安心されるのではないか。
- ③ 在宅療養後方支援病院についての理解と活用が十分ではないため、診療所にもっと在宅療養後方支援病院の周知をする必要があるのではないか。
- ④ 高度急性期病床を持つ病院から、ポストアキュートの患者の流れを円滑にするために、高度急性期病床を持つ病院から医療や看護のスキル向上のための支援をうけるしくみがあればいいのではないか。

【病院へのアンケートの実施】

上記のご提案を受け、懇談会の委員である吹田市民病院、済生会千里病院、済生会吹田病院と、作業部会の委員である吹田徳洲会病院、協和会病院、大和病院、井上病院、平海病院に、アンケート調査にて取り組みへの意向や意見を確認させていただいた(資料3-3)。

【今後の進め方等】

- ①及び②、③について、作業部会やアンケート等からの意見を反映し、資料3-4のとおり、一覧やちらしの案を作成しました。情報提供可能な項目や、これらの資料の診療所医師への配付についての意向も含め、各病院の意向を確認し、活用について検討する。
- ④について、病院の意向をアンケートにて確認させていただいた結果、いくつかの病院から関心があるとの意向を示していただいたことから、今後の展開については、吹田保健所等と相談をしながら進め方について検討していく。